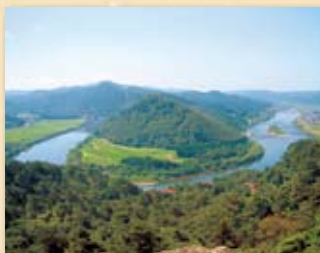
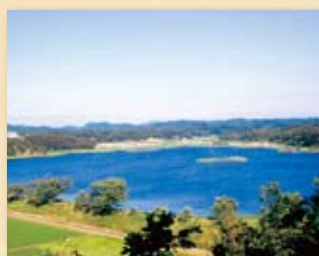


能代市

自然環境マップ



編集／能代市環境マップ作製委員会

発行／能代市環境産業部環境企画課 能代市上町1-3 TEL 0185-89-2178

風の松原は、能代市の海岸に広がる南北およそ14km、760haの日本最大の面積を有するクロマツの海岸砂防林です。

1700年頃の能代海岸一帯は、飛砂が猛威をふるい、耕地はもとより住居までが被害を受け、生活は困窮を極めたと言われています。

その後幾多の先人によって、海岸へのクロマツの植栽が行われました。その業績は現在に至るまで、多くの市民に称えられ、健康づくりの松原としても親しまれ、賑わっています。



1.健康づくりの道

ウッドチップを敷きつめた道は歩きやすく、老若男女、どなたにも親しまれている散歩コースです。



2.風の松原自然観察会

風の松原には自然に生えた植物が、350種を超えます。小鳥の囀りを聞きながら多くの市民が参加し、楽しんでいます。



3.大切な1本

松原ロードに偶然取り残されたクロマツです。誰にも邪魔にされず、これも私達に親しまれている1本です。



4.秋の松原

クロマツの幹にとり付いたツタが、見事に紅葉し、私達を楽しませてくれます。

1.能代港内海で繁殖する貝類

能代港の発展と共に防波堤など多くの人工物が構築されたことから、今まで見られなかった岩礁性貝類がんしょうせい かいるいが生息するようになり、能代市沿岸産貝類の確認種類96科275種（平成12年（2000）末調査）に及び、更に増える傾向です。平成に入って著しい繁殖いちじる はんしよくをしているシマメノウフネガイは、外国船の船底に付着して来て、港で産卵する繁殖力おうせいの旺盛な外来種です。

内湾に生息する主な種類には、タマキビ・コベルトフネガイ・ホトトギス・アズマニシキ・ナミマガシワ内湾に生息する貝類・ヒメシラトリ・イソシジミ・ソトオリガイ等の他、多くの種類が生息しています。



シマメノウフネガイ



内湾に生息する貝類

2.能代港港湾地域の帰化植物

外国船舶の入港と共に、港湾地域での植物相にも変化が見られ、近年新たな外来種の確認情報も聞かれます。工場等の建設で整地されると、最初に発芽、繁茂はんもするのが外来種に多く見られるのが特徴です。港湾地域で確認される帰化植物は、約50種（H3年（1991）～H13（2001）年間で確認）に及び、現在ではこの数を上廻るのではないかと思います。近年、新しく目につく外来種に、アメリカオニアザミ・ハナヤエムグラ・アメリカイヌホオズキ・コマツヨイグサ・クスダマツメクサ等が、一部の港湾地域で確認されています。

3.ハマエンドウ群落地

ハマエンドウの群落地は米代川河口の右岸に位置し、落合大開浜国有林から南西側の河口に向け長く延びた砂丘地こむらさきいるです。5月から夏にかけて濃紫色の花を咲かせるハマエンドウの群落は見事で、港湾地域内でも小規模ながら見られます。この砂丘地には、多種多様な海浜植物や貴重な植物が生育し、種によっては群落を形成しています。こうした、貴重な海浜植物を保護する対策が急務です。



マルバフジバカマ



ヨウシュヤマゴボウ



ハマエンドウ群落地



江戸時代の初期に^{さかき}榊地区240町歩の開田とあわせて造成された水田灌漑用の溜め池です。面積約55ヘクタール。沼の周縁部にはヨシ群落、マコモ、ショウブ、内部にはハス、ヒシなどが^{はんも}繁茂し、東部にはヨシ原が広がっています。堤防には、ノウルシ、キツネノカミソリ、ウラシマソウなども見られます。山野や水辺の野鳥、水棲動物など生物が多様で小友沼は四季を通じて^{やくどう}躍動感に満ちています。地元の人々は「おともの堤」といって親しんできましたが、市民の散策、小中学生の自然学習の場にもなっています。



小友沼は鳥類にとって特別な役割を果たしています。毎年秋にシベリヤカムチャツカの繁殖地から、渡ってくるガン類の重要生息地になっており、秋田県の鳥獣保護区、日本の重要湿地500、東アジア・オーストラリア地域の渡り性水鳥重要生息地として参加登録されています。最盛時には、ガン類が11万羽、ハクチョウ類が1万羽にもなり、国内でも有数の生息地として重要視されています。

小友沼でガン類が見られるのは、秋の9月下旬から4月上旬頃までです。沼に餌が豊富なこと、ねぐらとしての安全性、餌場となる能代平野の水田、八郎瀨干拓地の水田の存在が生息の大きな要因になっています。

ガン類の中で最も多いのがマガンで、ヒシクイが続き、希少種のハクガン、シジユウカラガン、サカツラガン、カリガネ、なども時折見られます。



ガン類の壮観な飛び出しが見られるのは早朝です。11月～12月は朝6時前後から、3月は5時前後からです。詳しくは下記に問い合わせください。





春のきみまち阪

14年に藤琴川に橋が掛けられ、明治天皇の東北ご巡幸のご一行をお迎えしました。美しい景観を御覧の天皇に、旅を気遣う皇后のお手紙が届いたところから、翌15年宮内庁より「きみまち阪」と御賜名されました。その後も地元住民により桜150本、つじ2,500本が植えられ整備され、大正13年(1924) 11月3日、二ツ井町、荷上場村、七座村合同による「きみまち阪公園」が開園しました。そして昭和39年(1964)に県立自然公園に指定されました。



秋のきみまち阪

叶うとうわさのレトロな郵便ポストも近くににあります。冬をのぞく毎日郵便屋さんがあるのでお試し頂くこともお勧めします。向かいには、八郎太郎伝説の七座原生林と米代川が見えます。米代川のUの字形の蛇行全部が見られるのは、全国でもここだけ、といわれた方もいました。夏から秋にかけて七座連山から降りてくる霧を見てもらうしか説明のしようがない壮大で幻想的な様相を見せてくれます。

その昔、荷上場、小繫間は2km程しかないのに時間もお金も一里行く程掛かるとい
う「一里の渡し」を川船で行くか、お金の
ない人は加護山へ藤琴川の浅瀬を歩いてわ
たり、この山を通りました。獣しか通らない
程ということから畜生坂、馬も人の助けが
いるところから馬上坂と呼ばれ、参勤交代
の津軽公は越えると国元へ早馬を出したと
いう羽州街道の難所でした。明治13年
(1880) 地元住民によって切通が掘られ、

春は、ベニヤマザクラやソメイヨシノに
アカネスミレ、ミズバショウからミヤマツ
ツジが魅了する。夏は新緑が涼しく、秋に
はモミジの紅色が奇岩怪石に映え、冬には
水墨画のような雪景色と年中美しい中を散
策できます。

また、昭憲皇太后のお手紙のことから誰
が建立したのか、第一広場夫婦岩の奥に恋
文神社がちょこんと鎮座していらっしやる。
神社にお参りして恋文を投函すれば思いが

5 7 仁鮎水沢スギ植物群落保護林・七座の原生林



天然秋田杉

日本一高い天然秋田スギがあり、天然秋田杉の代表的な林分を保護し、保存するため、昭和22年(1947)学術参考保護林に指定されました。(現在は植物群落保護林)昭和46年(1971)県指定記念物に指定広さ約18ha、平均樹齢250年、平均樹高50mの天然秋田杉が約2,800本程あります。日本一のスギは、樹高58m、胸高直径164cm、材積40立方メートルあり、15階建てのビルに相当、一本で55坪の家が建てられます。平成7年(1995)に秋田営林局長が全国の営林局に問い合わせ、他では50mが最高であったことから平成8年(1996)日本一と認定しました。樹は、周囲の草木を弱らせて成長するが、ここではすぐ近くに大木が並んで立っておりそのため高く伸びることができたと思われれます。杉は、200年位になると自分の重量で目が込み

天然杉としての風格がでてくると思われますが、いかがでしょうか。駐車場からは、標高差が50m程なので楽に散策できると思います。



七座の原生林

七座の原生林は、幕府から緊急の木材納入命令に備えて、山から搬出しやすい川の側の御直山として大切に保護されてきました。藩の石高が水戸時代の半分以下になったことから、森林、鉱山を大切に保護したことで、樹齢300年余りの天然秋田杉の巨木が林立しています。天然杉が残り少ない今では貴重な資源です。1200年程の歴史を誇る岩に彫られた獅子頭や、凸凹穴の岩屋、山神様など修験道の信仰の山でもあります。

岩の間に居ると自然と一体化し自分の存在を客観的に見つめられます。7つの峰を縦走し林内を散策したり、寝椅子を持ち込んで読書などしながらの森林セラピーもお勧めです。また、十和田湖から八郎潟まで連なる雄大なスケールの八郎太郎物語で八郎が、天神様との力競べで投げた岩がある伝説の舞台でもあります。駐車場からすぐ山に入る事ができ、阿倍比羅夫の七座天神、銀杏山神社も近くにあります。

問い合わせ

ニツ井町観光協会
きみまち観光ガイドの会 (担当 伊藤 徳治)

TEL 0185-73-5075
TEL 0185-73-3875

檜山ひやまは四季の自然が美しく、珍しい動植物が見られます。檜山城には戦国大名の安東氏が勢力を誇っていましたが、近世には多賀谷氏ひたちしもつまが常陸下妻から佐竹氏さやくふんの客分として参着し、能代山本を治めました。そこで、家臣らが持ち込んだと思われる特徴的な植物も多い地域です。かつて矢に使用されたヤダケは、多賀谷氏居館跡の周辺一帯に生育しています。

◆山 野 草◆

◆樹 木◆

春



マイヅルソウ



エゾタンポ



ヒメウコギ



早春のミズキ

檜山城跡のマイヅルソウ群落は見事で、ヒメウコギは江戸期に檜山入りした多賀谷家臣団が生垣や食用に持ち込んだものが、今は野生化して見られます。

夏



ノカンゾウ



カザグルマ



ゴヨウアケビ



ヤダケ

多賀谷氏居館跡周辺のゴヨウアケビは、江戸期に同氏家臣団が関東から持ち込んだアケビと能代市周辺に生育するミツバアケビによる珍しい交雑種です。

秋



エゾトリカブト



モウセンゴケ



クマザサ



チャノキ

モウセンゴケは檜山の奥に生育しています。クマザサやチャノキは多賀谷家臣団によって下妻しもつまや京都から観賞や飲用に持ち込まれ、野生化したものです。

動物



クロサンショウウオの卵



モリアオガエルの卵



カモシカ

珍しいクロサンショウウオは多寶院たぼういんや檜山城跡の周辺で見られます。

問 い
合 わ せ

のしろ檜山周辺歴史ガイドの会 (会長 田中 芳夫) TEL 0185-58-2327



ブナ林



巨大ブナ



避難小屋

世界遺産白神山地の南端に接するところにブナ林があります。この岳国有林に鮭が遡上し、イワナやヤマメが放流されている種梅川の源流があります。また天然林を伐採し、杉の植林を中心に展開していた国有林を町の水瓶として貴重な広葉樹林を伐採から守り保護するために、平成7年（1995）旧二ツ井町は林野庁と協定を結び「ふたつ白神郷土の森」を設定しました。世界遺産に隣接する白

神山地の一部、広さ189.78ha、標高350～750mのほとんどが60～250年生の天然林で、そのうちの80%がブナで占められています。森林、林業の町として繁栄してきた旧二ツ井町の象徴でもあります。

西洋と比べて日本のブナ林は林床の植物が多彩で、高木、亜高木、低木、草本の4層から成り立っています。また、ブナ林の植物層は、積雪と深い関わりがあり、日本海側の多雪地帯と太平洋側の少雪地帯で特徴が大きく異なります。

ソーラーシステム照明の木造の避難小屋、電力を使わない土壌浸潤式浄化槽の水洗トイレ、視野が広く標高470mとは思えない眺めの展望台等があります。秋田杉とブナの入り交じる混交林、一度伐採された後にできたブナの二次林の中を、ギンリョウソウ、オオカメノキ、ニリンソウ、ユキザサなど山野草を愛でながら、614mの小滝山登山が2時間ほどで廻れます。山菜が少ないのと遠路のため山は自然の状態を保たれています。世界遺産との境の峰は、国道7号線から綺麗に見ることができます。